

BOAT TIMES

<Vol. 141>

2017 / 5 / 19 発行

編集 長岡 真大

桑野造船株式会社

〒520-0357 大津市山百合の丘10-1

TEL : 077-598-8090 FAX : 077-598-2505

URL : <http://www.k-boat.co.jp>

E-mail : kuwano@k-boat.co.jp

●山百合工場3年目

桑野造船は明治元年、大津市浜大津で創業、その後、堅田に競漕艇専用工場を建設し永く拠点としていましたが、3年前に現在の山百合の丘に新工場を建設、5月でちょうどまる3年です。工場の「竣工」(完成)と言っても実際には、操業しながら不足を補い、課題を改善し、使い勝手が良いように、またエネルギー消費を抑えるなど、様々な改善・向上をしていかななくてはなりません。その目的はもちろん、工場の建物というよりも、作っているボートの品質(性能や耐久性 etc) や働く人の環境向上のためということだと思います。3年の間に、桑野艇および桑野取扱商品をご愛顧いただいている多くの方々に、ご来社・ご視察いただきました。今後ともぜひお気軽にご来社ください。(工場見学ご希望の場合は、事前にご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。) 【小澤】



●第70回記念大会朝日レガッタ

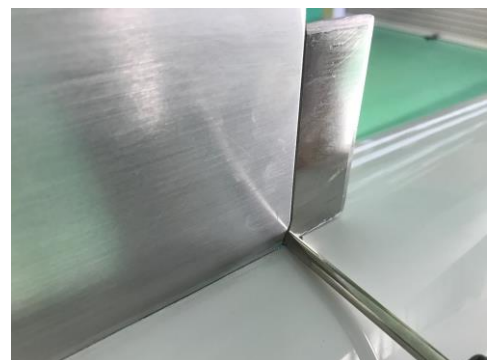
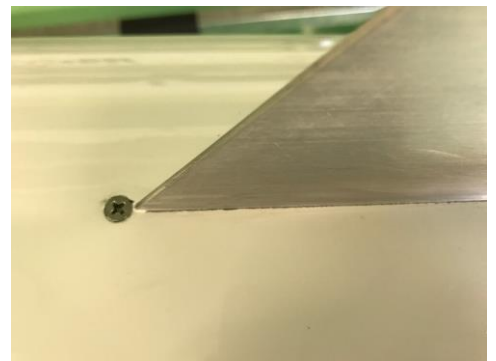
5/4(木)~7(日)、70回目という大きな節目となった朝日レガッタが行われました。ニュージーランドとデンマーク、今年の国体開催県の愛媛県の選手が招待選手として出漕し、会場ではライブ配信やドローンの空撮など会場中が大変盛り上がりしました。期間中、5/5発行の朝日新聞滋賀県版で弊社の出店・メンテブースを取り上げて頂きました。交流の場として、今後とも是非お気軽に桑野ブースへ足をお運びください。

●フィンの話

旧来、フィンは船艇に完全に固定され、損傷すると修理が大変でした。今日ではほとんどの場合、フィン座(埋め込まれた台座)の溝にフィンを差し込み、ネジで取付ける構造なので、容易に交換でき、また強い衝撃では脱落して、船体を守るようになっていきます。このため、取り付けは必ずしも頑強でなく、旧来のフィンと比較すると、多少のぐらぐら感やアソビが感じられることもあります。アソビが、バランスや針路に影響するのではないかとのご心配もあるかと思いますが、片側に大きく(約5°以上)傾いているのでなければ、あまり神経質になる必要はありません。なお、大きながたつきは、薄膜テープを適切な位置に貼って調整することがあります。(フィンとフィン座の間でなく)フィン座自体がぐらついている場合は早急な修理が必要です。また、平板フィンが湾曲しているとか、取り付け方向が艇軸からズレている場合は、わずかでもかなり敏感に進行方向に影響を与えることがありますので、ご注意ください。

フィンを外す場合、まずネジを外し、あて木やプラスチックハンマーなどで「優しく」打撃を加え、前方に滑らせます。フィン・ラダーの構造では、最初にフィンとラダー軸の間のわずかな隙間に、マイナスドライバーなどを差し込み回転させて、動かし始めます。

ところでフィンは、船体の中でも比較的よく損傷する部位ですが、特に、水上ではなく陸上でよく損傷が発生します。風で船台(ウマ)から落ちた、ウマのシートが傷んで破れて落ちた etc 突風に備えて陸上での固定、船台の布にも気を配ってください。【小澤】



●お知らせ

◇FM 滋賀 e-radio に出演しました。

5/17(水)のFM 滋賀 e-radio に弊社社長の小澤が出演しました。桑野造船を多くの方に知ってもらえる、とても良い機会を頂きました。

◇出店情報

全日本軽量級選手権 : 5/26(金)~5/28(日) 出店中はパーツの受け渡しも行っております。シューズ等の大きいパーツは持ち込み数が少なくなっておりますので、事前にご連絡頂けると幸いです。